

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3840460号
(P3840460)

(45) 発行日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(24) 登録日 平成18年8月11日(2006.8.11)

(51) Int. Cl.	F I
G09F 3/03 (2006.01)	G09F 3/03 D
G09F 3/10 (2006.01)	G09F 3/10 A
G09F 3/02 (2006.01)	G09F 3/02 C
G09F 3/00 (2006.01)	G09F 3/00 Q

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2003-126242 (P2003-126242)	(73) 特許権者	592186788
(22) 出願日	平成15年5月1日(2003.5.1)		クルツジャパン株式会社
(62) 分割の表示	特願2002-301282 (P2002-301282)		大阪府吹田市豊津町16番24号
原出願日	平成14年10月16日(2002.10.16)	(74) 代理人	100073184
(65) 公開番号	特開2004-139016 (P2004-139016A)		弁理士 柳田 征史
(43) 公開日	平成16年5月13日(2004.5.13)	(74) 代理人	100090468
審査請求日	平成15年5月1日(2003.5.1)		弁理士 佐久間 剛
		(72) 発明者	濱田 ▲隆▼義
			大阪府吹田市豊津町16番24号 クルツ ジャパン株式会社内
		審査官	櫻井 茂樹

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両盗難予防方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

車両の盗難予防方法であって、支持体層と、該支持体層の上面に形成された第1の粘着剤層と、該第1の粘着剤層の上面に形成された、所定のパターンが前記第1の粘着剤層とは反対側から視認可能なように含められた自己破壊型のフィルム層と、該フィルム層の上面に形成された、前記車両の車両番号を含む車両情報を、前記フィルム層とは反対側から視認可能なように表す印刷層と、該印刷層の上面に形成された透明の第2の粘着剤層と、該粘着剤層の上面に透明の離型剤層とともに形成された保護フィルム層とを備えた車両盗難予防用ステッカーを作成し、

前記保護フィルム層を剥がして前記車両盗難予防用ステッカーを前記車両の防風ガラスの内側に貼付することを特徴とする車両盗難予防方法。

10

【請求項2】

前記自己破壊型のフィルム層として、該フィルム層の全面または一部にホログラムを有するホログラムフィルムを用いることを特徴とする請求項1記載の車両盗難予防方法。

【請求項3】

前記印刷層を、熱転写印刷により前記フィルム層に形成することを特徴とする請求項1または2記載の車両盗難予防方法。

【請求項4】

前記印刷層に、前記車両情報と対応付けられたバーコードを含ませることを特徴とする請求項1から3のいずれか1項記載の車両盗難予防方法。

20

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、車両の防風ガラスの内側にステッカーを貼付して車両の盗難を予防する車両盗難予防方法に関するものである。ここで、防風ガラスとは、車両のフロントガラスに限らず、後部ガラスを含むものとし、さらには側面の窓ガラスも含むものとする。

【0002】**【従来の技術】**

従来より、車両にはその前後にナンバープレートが取り付けられており、ナンバープレートを参照することにより、車両を特定することができる。とくに、車両が盗難等された場合には、ナンバープレートを参照することにより、車両の早期発見につながる場合がある。

10

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、ナンバープレートは比較的取り外しが容易であるため、ナンバープレートのみが盗難され、これが犯罪に悪用される場合がある。さらに、車両が盗難された場合に、ナンバープレートが交換されてしまうと、盗難車両の特定ができなくなってしまう。

【0004】

本発明は上記事情に鑑みなされたものであり、ナンバープレートと同時に車両の識別を容易に行うことができる車両盗難予防方法を提供することを目的とするものである。

20

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本発明による車両盗難予防方法は、支持体層と、該支持体層の上面に形成された第1の粘着剤層と、該第1の粘着剤層の上面に形成された、所定のパターンが前記第1の粘着剤層とは反対側から視認可能なように含められた自己破壊型のフィルム層と、該フィルム層の上面に形成された、前記車両の車両番号を含む車両情報を、前記フィルム層とは反対側から視認可能なように表す印刷層と、該印刷層の上面に形成された透明の第2の粘着剤層と、該粘着剤層の上面に透明の離型剤層とともに形成された保護フィルム層とを備えた車両盗難予防用ステッカーを作成し、前記保護フィルム層を剥がして前記車両盗難予防用ステッカーを車両の防風ガラスの内側に貼付することを特徴とするものである。

30

【0006】

「防風ガラスの内側に貼付する」とは、少なくとも車両の前または後のガラスの内側に貼付可能であることを意味する。

【0007】

「支持体層」は、紙、塩化ビニル等のプラスチックフィルムまたは反射シート等からなる。なお、支持体層は装飾性や視認性を向上させるために、着色されていたり、陸運局や国土交通省等の役所のマーク等の図柄を含むものであってもよい。

【0008】

「所定のパターン」には、陸運局や国土交通省等の車両番号を管理する役所のマーク、役所により認証されたことを表すマーク、車両番号を配置するための罫線、車両によっては変更されない情報、認証模様、規則性のあるまたは不規則な図柄等を含めることができる。

40

【0009】

なお、本発明による車両盗難予防方法においては、前記自己破壊型のフィルム層として、該フィルム層の全面および／または一部にホログラムを有するホログラムフィルムを用いることが好ましい。

【0010】

ホログラムフィルムは、陸運局等の車両番号を管理する役所のマーク、役所により認証されたことを表す認証模様やマーク、規則性のあるまたは不規則な図柄等がホログラムによ

50

り含まれてなるフィルムである。

【0011】

また、本発明による車両盗難予防方法においては、前記印刷層を、熱転写印刷により前記フィルム層に形成することが好ましい。なお、熱転写印刷のみならず、インクジェット印刷等の他の印刷方法により印刷層を形成してもよい。

【0012】

また、前記印刷層に、前記車両情報の他に、その車両情報と対応付けられたバーコードを含ませることが好ましい。

【0013】

【発明の効果】

本発明による車両盗難予防方法は、車両盗難予防用ステッカーの保護フィルム層を剥がし、車両盗難予防用ステッカーを第2の粘着剤層側から防風ガラスの所望とする位置に貼付する。

【0014】

このように、本発明の車両盗難予防方法によれば、車両番号を含む車両情報を防風ガラスに容易に貼付することができるため、ナンバープレートと同じ車両番号を、改ざん不可能な態様で防風ガラスに表示することができる。

【0015】

また、車両盗難予防用ステッカーは防風ガラスの内側から貼付されるため、車両の所有者等、権限のある者以外の者が車両盗難予防用ステッカーに手を触れることはできない。さらに、自己破壊型のフィルム層を用いており、さらにフィルム層に印刷層が形成されているため、一旦貼付された車両盗難予防用ステッカーを剥がすと、フィルム層が破壊されてこれに含まれる所定のパターンおよび印刷層も破壊され、その結果、ステッカーの再使用ができなくなる。したがって、車両の登録時に、陸運局や国土交通省等権限のある役所が車両盗難予防用ステッカーを車両のナンバープレートとともに発行し、車両盗難予防用ステッカーの貼付を義務づけるようにすれば、ナンバープレートを取り外したり、不法に交換した場合には、ナンバープレートと車両に貼付された車両盗難予防用ステッカーに含まれる車両番号とが一致しなくなる。よって、ナンバープレートの盗難、さらには車両の盗難等の犯罪を未然に防止することが可能となる。

【0016】

また、車両盗難予防用ステッカーにおいて、フィルム層をその全面および／または一部にホログラムを有するホログラムフィルムとすることにより、陸運局等の役所により認証されたことを表す認証模様等を所定のパターンとして容易に模倣できない態様にて車両盗難予防用ステッカーに含ませることができる。したがって、車両盗難予防用ステッカーの偽造を防止することができる。

【0017】

また、熱転写印刷等の印刷方法によりフィルム層に印刷層を形成することにより、印刷層の形成を容易に行うことができる。

【0018】

また、印刷層を車両情報と対応付けられたバーコードを含むものとするにより、車外からの遠隔バーコードリーダー等により自動的に車両番号を読み取ることを容易にし、高速道路等の料金所での出入車両の記録、有料駐車場の車の出入りの管理、会員制の会場への入場チェック等に利用することも可能となる。

【0019】

【発明の実施の形態】

以下図面を参照して本発明の実施形態について説明する。図1は本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカーの構成を示す平面図、図2はその断面図である。図1および図2に示すように、本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカー10は、支持体層11と、支持体層11の上面に形成された第1の粘着剤層12と、第1の粘着剤層12の上面に形成された自己破壊型のフィルム層13と、フィルム層13の上面に形成された、車

10

20

30

40

50

両情報を表す印刷層 1 4 と、印刷層 1 4 の上面に形成された第 2 の粘着剤層 1 5 と、第 2 の粘着剤層 1 5 の上面に離型剤層 1 6 とともに形成された保護フィルム層 1 7 とからなる。なお、図 2 において、各層を分離させて図示している箇所があるが、実際には各層は密着しているものである。

【0020】

支持体層 1 1 は、本実施形態による車両盗難予防用ステッカーを車両の防風ガラスに貼付した際に、印刷層 1 4 により表される車両情報が視認しやすいように白色の紙または塩化ビニル等のプラスチックフィルム等が用いられる。

【0021】

なお、支持体層 1 1 として反射シートを用いてもよく、支持体層 1 1 を着色したり、陸運 10
局や国土交通省のマーク等の図柄を付与してもよい。

【0022】

また、支持体層 1 1 の下面には、支持体層 1 1 を保護するために透明の保護フィルム層 2 0 を設けることが好ましい。保護フィルム層 2 0 は、車両盗難予防用ステッカー 1 0 を貼付する際に容易に剥がすことができるものである。

【0023】

第 1 および第 2 の粘着剤層 1 2, 1 5 は、通常は粘着剤をコーティングすることにより構成されるが、両面テープにより構成することもできる。なお、粘着剤層 1 2, 1 5 としては、車両の防風ガラスに一旦貼付したステッカーを剥がしたときに、フィルム層 1 3 およ 20
び印刷層 1 4 が自己破壊可能な程度の粘着力のものが用いられる。

【0024】

フィルム層 1 3 は脆質の透明フィルム、より好ましくはホログラムフィルムにより構成される。ここで、本実施形態においては、「Japan」および「2002」の文字並びに車両情報を配置させるための罫線が所定のパターンとしてフィルム層 1 3 の表面に印刷されることにより、フィルム層 1 3 に含められているが、陸運局や国土交通省等の役所のマークを所定のパターンとしてフィルム層 1 3 に含めてもよい。

【0025】

ここで、所定のパターンは印刷によりフィルム層 1 3 に含めてもよく、ホログラムの干渉パターンに対応した干渉縞によりフィルム層 1 3 に含めてもよい。

【0026】

なお、ホログラムフィルムを用いることにより、陸運局や国土交通省等の役所により認証されたことを表す認証用模様、認証されたことを表すマーク、規則性のあるまたは不規則な図柄等を容易に模倣できない態様にてフィルム層 1 3 に含ませることができる。例えば、図 3 (a) に示すように規則性のある図柄 3 A をホログラムとして含ませたり、図 3 (b) に示すようにマーク 3 B をホログラムとして含ませることができる。そしてこれにより、本実施形態による車両盗難予防用ステッカー 1 0 の偽造を防止することができる。

【0027】

なお、ホログラムフィルムによる模様は光の反射により容易に認識できるため、夜間であっても光を用いることにより、認証の有無を容易に認識することができる。

【0028】

印刷層 1 4 は、車両番号を含む車両情報を、熱転写印刷によりフィルム層 1 3 に印刷することにより形成される。なお、本実施形態においては、車両情報には車両番号とともに、車両情報と対応付けられたバーコードが印刷層 1 4 に含められている。また、熱転写印刷に代えてインクジェット印刷等の他の印刷方法を用いてもよい。

【0029】

なお、本実施形態においては、「Japan」および「2002」の文字並びに車両情報を配置させるための罫線をフィルム層 1 3 に含めているが、これらを印刷層 1 4 に含め、車両情報とともにフィルム層 1 3 に印刷してもよい。

【0030】

保護フィルム層 1 7 は透明な材質のフィルムからなる。保護フィルム層 1 7 には離型剤が 50

塗布されて離型剤層 16 が形成される。この離型剤層 16 により第 2 の粘着剤層 15 と保護フィルム層 17 との分離が容易となる。また、保護フィルム層 17 により第 2 の粘着剤層 15 が保護されるため、第 2 の粘着剤層 15 の汚染が防止され、これにより印刷層 14 の視認性が向上される。

【0031】

なお、本実施形態による車両盗難予防用ステッカー 10 は、図 4 に示すように、まず、保護フィルム層 20、支持体層 11、第 1 の粘着剤層 12、フィルム層 13 および印刷層 14 を積層させて第 1 の積層体 30 を形成する。一方、第 2 の粘着剤層 15、離型剤層 16 および保護フィルム層 17 を積層させて第 2 の積層体 31 を形成する。なお、第 2 の粘着剤層 15 を保護するために第 2 の積層体 31 には保護フィルム層 22 が付与される。そして、第 2 の積層体 31 の保護フィルム層 22 を剥がし、第 1 の積層体 30 と第 2 の積層体 31 とを張り合わせることににより、車両盗難予防用ステッカー 10 が形成される。

10

【0032】

このように構成された本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカー 10 は、保護フィルム層 17 を剥がすことにより、第 2 の粘着剤層 15 側から車両の防風ガラスの所望とする位置に貼付される。

【0033】

このように、本実施形態による車両盗難予防用ステッカー 10 によれば、車両に関する情報を防風ガラスに容易に貼付することができるため、ナンバープレートと同じ車両番号を、改ざん不可能な態様で防風ガラスに表示することができる。

20

【0034】

また、車両盗難予防用ステッカー 10 は防風ガラスの内側から貼付されるため、車両の所有者等、権限のある者以外の者が車両盗難予防用ステッカー 10 に手を触れることはできない。さらに、自己破壊型のフィルム層 13 を使用し、さらにフィルム層 13 に印刷層 14 を形成しているため、一旦貼付された車両盗難予防用ステッカー 10 を剥がすと、フィルム層 13 および印刷層 14 が破壊され、これに含まれるホログラムによる認証模様や役所のマーク、さらには印刷層 14 により表される車両情報も破壊され、その結果、ステッカーの再使用ができなくなる。したがって、車両の登録時に、陸運局や国土交通省等権限のある役所が車両盗難予防用ステッカー 10 を車両のナンバープレートとともに発行し、車両盗難予防用ステッカー 10 の防風ガラスへの貼付を義務づけるようにすれば、ナンバープレートを取り外したり、不法に交換した場合には、ナンバープレートと車両に貼付された車両盗難予防用ステッカー 10 に含まれる車両番号とが一致しなくなる。よって、ナンバープレートの盗難、さらには車両の盗難等の犯罪を未然に防止することが可能となる。

30

【0035】

また、車両の登録年度に応じて、車両情報の色、支持体層 11 の色、フィルム層 13 の色を変更することにより、登録年度の識別も容易となる。

【0036】

また、車両情報と対応付けられたバーコードを印刷層 14 に含めることにより、車外からの遠隔バーコードリーダー等により自動的に車両番号を読み取ることを容易にし、高速道路等の料金所での出入車両の記録、有料駐車場の車の出入りの管理、会員制の会場への入場チェック等に利用することも可能となる。

40

【0037】

なお、上記実施形態において、車両番号を含むものであれば、車検の有効期限、保険番号、保険会社名、有効日、車両の登録書類番号等も車両情報として印刷層 14 に含めてもよい。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカーの構成を示す平面図

【図 2】 本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカーの構成を示す断面図

【図 3】 ホログラムフィルムの態様を示す平面図

50

【図 4】 本発明の実施形態による車両盗難予防用ステッカーの製造工程を示す断面図

【符号の説明】

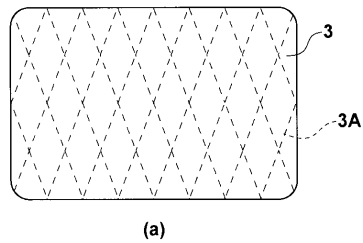
- 1 0 車両盗難予防用ステッカー
- 1 1 支持体層
- 1 2 第 1 の粘着剤層
- 1 3 フィルム層
- 1 4 印刷層
- 1 5 第 2 の粘着剤層
- 1 6 離型剤層
- 1 7, 2 0, 2 2 保護フィルム層

10

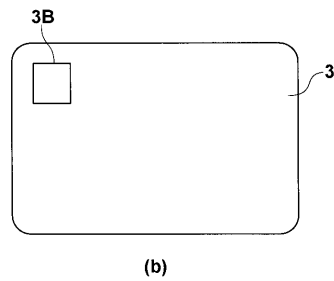
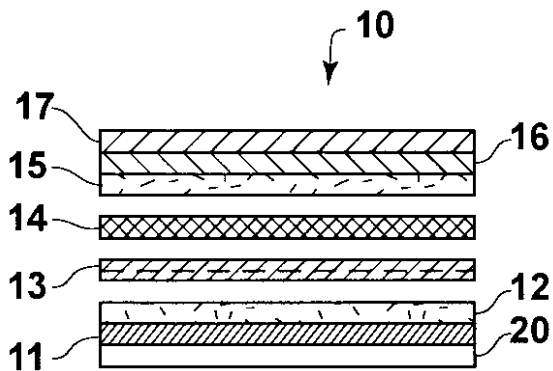
【図 1】



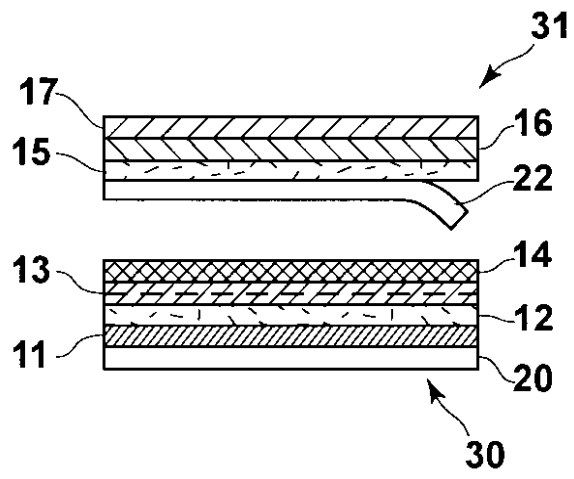
【図 3】



【図 2】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平04-118689 (JP, A)
特開2001-034170 (JP, A)
実開昭62-203068 (JP, U)
特許第2905587 (JP, B2)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
G09F3/00~3/20